

ICM リソースパケットその4：付属文書B

付属文書B

学習と指導の原則の一致

1. 学習には学習者の積極的な参加が必要である。教員は学習者を積極的に参加させなければならない（「語る」のは避けること）。



2. 学習は、学習者の認知されたニーズに応じて行われた場合に、より効果的になる。教員は、学習者が自己主導のレベルを上げるために指導・支援・コーチをし、現在学習中の内容と、専門職としての助産師になるという学習者の目標との関連性を指摘すること。



3. 学習には理解が必要である。教員には効果的なコミュニケーターであること、考え方や概念を明確に示すこと、別の説明の仕方も用意すること、頻繁に理解度を確認することが求められる。
4. 学習には時間を要する。教員には忍耐と、傾聴・見守り・待ちの高度な技術に加え、新米から上級臨床家の「通常の」進歩に関する知識が求められる。



5. 学習は、馴染みのある内容から新しい内容へ、基礎的な内容から複雑な内容に移る時に強化される。教員はそれまでの学習や経験をもとにした学習経験を選択し、個々の学習者の進度に応じて徐々に複雑な内容・臨床経験を課していくようにすること。



6. 学習は、一次的な停滞期も含め、様々な速さ・方法・パターンで進む。教員は学習者のニーズ、学習パターン、進度、期待される学習成果にあった適切な指導方法を使用すること。
7. 学習は、直後に実践された場合に長く維持される。教員は、現在学習していることを強化する学習環境を、頻繁にタイミングよく提供すること。
8. 学習は、繰り返しによって強化される。教員は、知識の応用、精神運動技術の実行、専門職としての行動の実証の機会を多数提供すること。
9. 学習は強化されなければならない。教員は、好ましい成果の確認と間違いの修正を伴う学習の自己評価を促すこと。
10. 学習において求められるパフォーマンス成果を知らせておく必要がある。教員は安全な実践の境界を設け、学習の期待される成果を定義・検証し、学習者がこの成果を達成するのを支援すること。
11. 学習は、感情と身体的・精神的健康に影響される。教員は、学習に伴う不安やストレスに対する様々な人間の反応を理解し、落ち着いた、尊重し合い、違いを許容する学習環境を作り出すこと。



12. 学習は、学習者自身に進歩が明らかな場合に容易になり、成功もする。教員は、各学習者が自身の進歩を評価する支援をし、自己アセスメントを確認し、学習者の進歩を称賛すること。

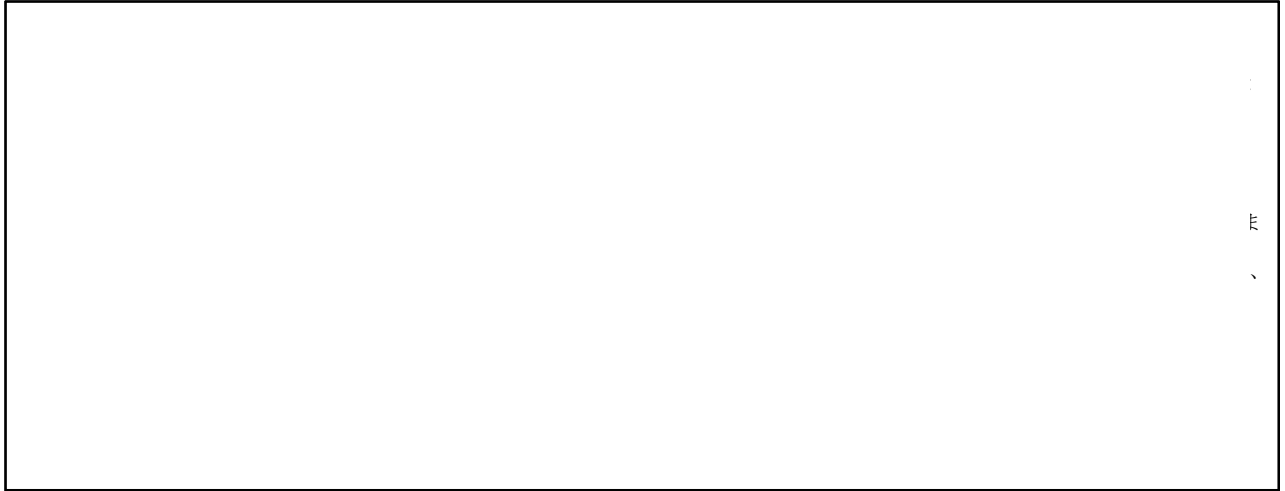
13. 学習は、事実よりもアイデアによって促進される。教員は、批判的思考（クリティカル・シンキング）、熟考、原則に基づいた行動、適切な根拠に裏付けされた助産ケアの代替アプローチを奨励すること。



14. 自己主導型学習と説明責任は、学習によって身に付く行動である。教員は、踏み込むとき、引くとき、手放すときを心得て、学習者が自身の学習に説明責任を持ち、助産ケアへのアプローチを自己主導できるようにするため多くの機会を与えること。
15. 学習は、学習者がモチベーションを維持できるよう、満足感が得られるものでなければならない。教員の主たる責任はどのように学ぶかを他者に教えることであって、自らが手本となって継続的な学習と「より知る」ための情熱を強化すること。



(公社) 日本看護協会 (公社) 日本助産師会 (一社) 日本助産学会訳



¹ Joyce E. Thompson, DrPH, RN, CNM, FAAN, FACNM が 2012 年に現在行っている指導と以下の出版物に基づいて作成 : Thompson, Kershbaumer, & Krisman-Scott (2001). *Educating Advanced Practice Nurses and Midwives*. New York: Springer Publishing Company.